

次期「青梅市 商・工業振興プラン」策定に向けた  
青梅市の現状分析

---

2025年9月

---

# 青梅市商・工業振興プラン策定の全体フロー

令和7年度

## 市内事業者、商店街等の現況調査

### ア 事業者アンケート調査

✓商業サービス業、製造業、倉庫・運送業

### イ 商店街等調査

✓商店街等14団体へのアンケート

### ウ 市民アンケート調査

✓市民2000人へのアンケート

### エ 事業者および団体ヒアリング調査

✓先駆的取組実施事業者、支援機関・団体等

## 地域の現状分析

### ①市の概況（人口・産業等の統計データの整理）

✓国勢調査、経済センサス等の統計データ

### ②地域経済に関する分析

✓地域経済循環分析（経年分析含む）

### ③企業の進出、撤退等の主要動向の整理

✓市内の動向、これら動向と地域経済との関係・影響

### ④アンケート及びヒアリング調査結果の分析

✓アンケート結果の集計

## 現況分析報告書の作成

### ①本市の地域経済の特徴、強み・課題

✓経済の動向、長所短所、懸念等

### ②現行プランの評価

✓成果指標の評価、経済循環構造構築からの評価

### ③本市の商工業施策の方向性の検討

✓長所を活かし、短所を補う等による施策の方向性

## 各種会議等

市内の会議等

市民ワークショップ等

工業振興対策審議会

商業振興対策審議会

令和8年度

## 4. プランの作成（素案作成、計画策定）

パブリックコメント支援

素案の作成

商・工業振興プランの策定

# 目次

---

- 1. 青梅市の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4
- 2. 青梅市の地域経済循環分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.20

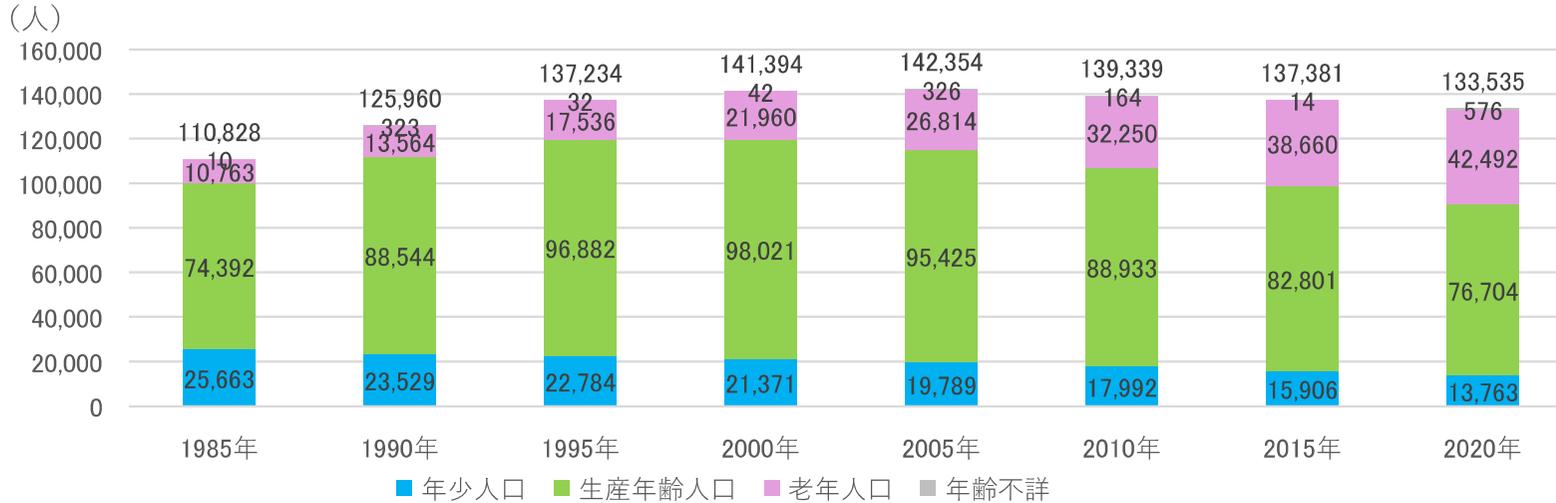
---

# 1. 青梅市の概況

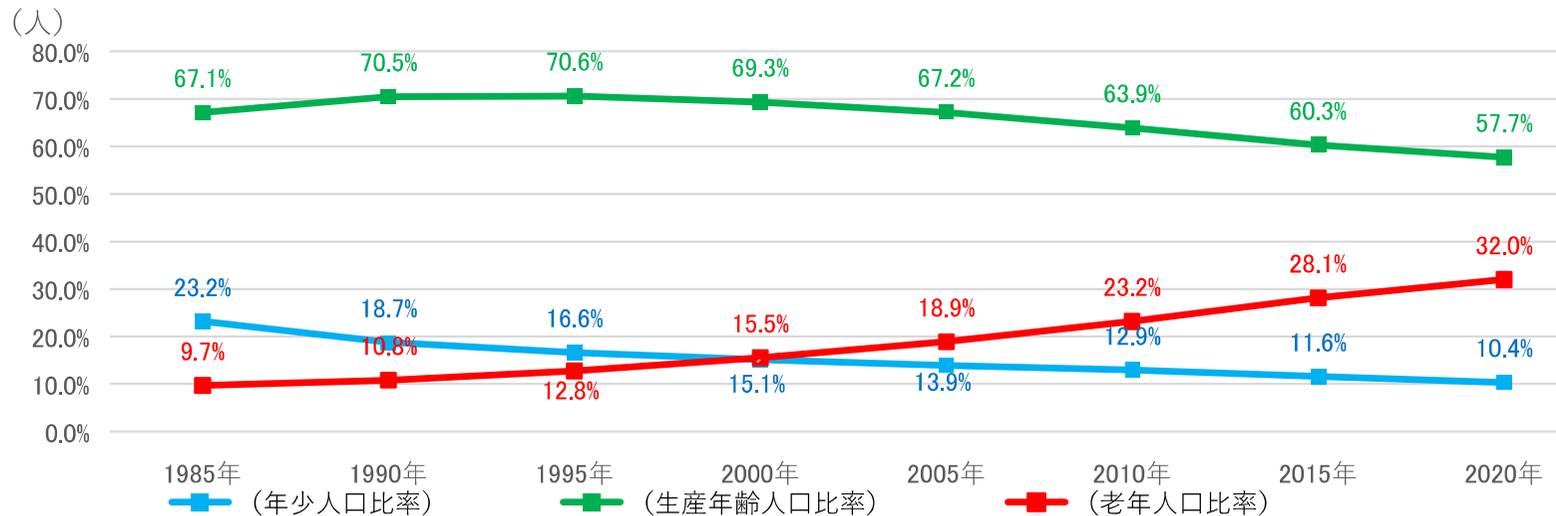
# 青梅市の人口

- 国勢調査によると、青梅市の人口は2005年をピークに減少に転じている
- 高齢化率が上昇している一方で、生産年齢人口比率、年少人口比率は低下してきている。

## 年齢3区分別人口の推移



## 年齢3区分別人口割合の推移



# 周辺市町村の人口

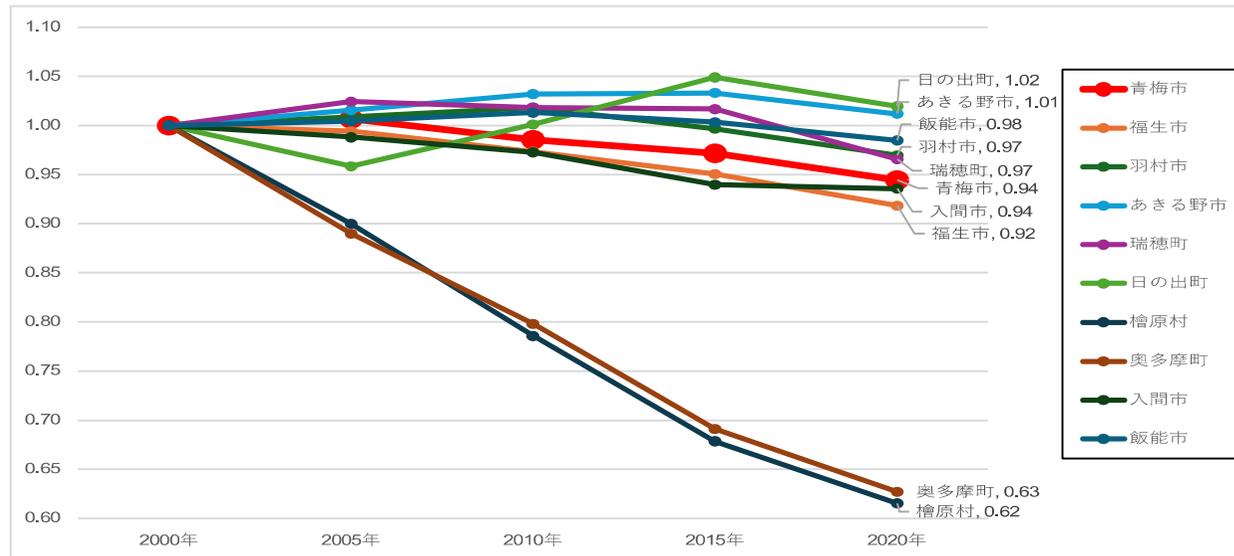
●青梅市の周辺市町村でも人口は減少傾向となっているが、青梅市は周辺市町村と比較してその減少率がやや高い。

## 周辺市町村の人口推移

(単位：人)

市町村	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
青梅市	110,828	125,960	137,234	141,394	142,354	139,339	137,381	133,535
福生市	51,478	58,062	61,497	61,427	61,074	59,796	58,395	56,414
羽村市	47,203	52,103	55,095	56,013	56,514	57,032	55,833	54,326
あきる野市	66,529	71,940	75,355	78,351	79,587	80,868	80,954	79,292
瑞穂町	27,033	30,967	32,714	32,892	33,691	33,497	33,445	31,765
日の出町	15,787	16,444	16,701	16,631	15,941	16,650	17,446	16,958
檜原村	4,012	3,808	3,560	3,256	2,930	2,558	2,209	2,003
奥多摩町	9,273	8,752	8,257	7,575	6,741	6,045	5,234	4,750
入間市	69,109	75,794	83,278	85,886	84,860	83,549	80,715	80,361
飯能市	118,603	137,585	144,402	147,909	148,576	149,872	148,390	145,651

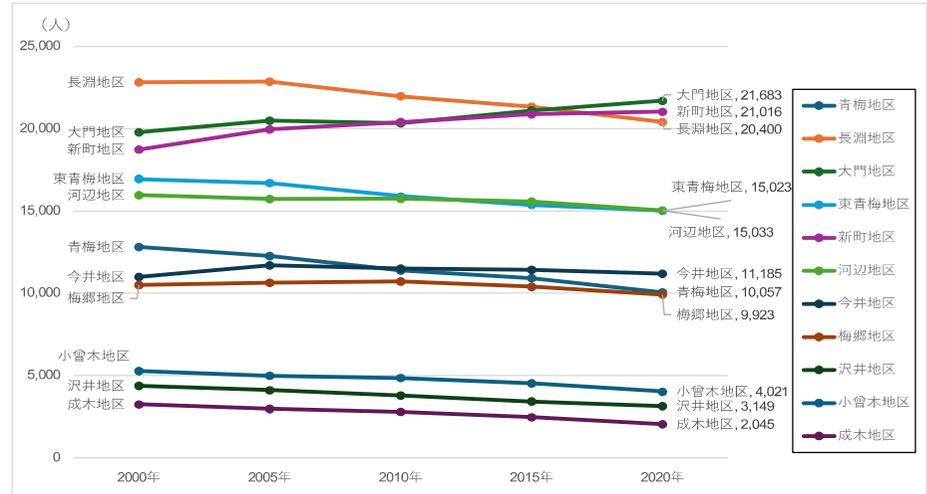
## 周辺市町村の人口推移（2000年=1.00）



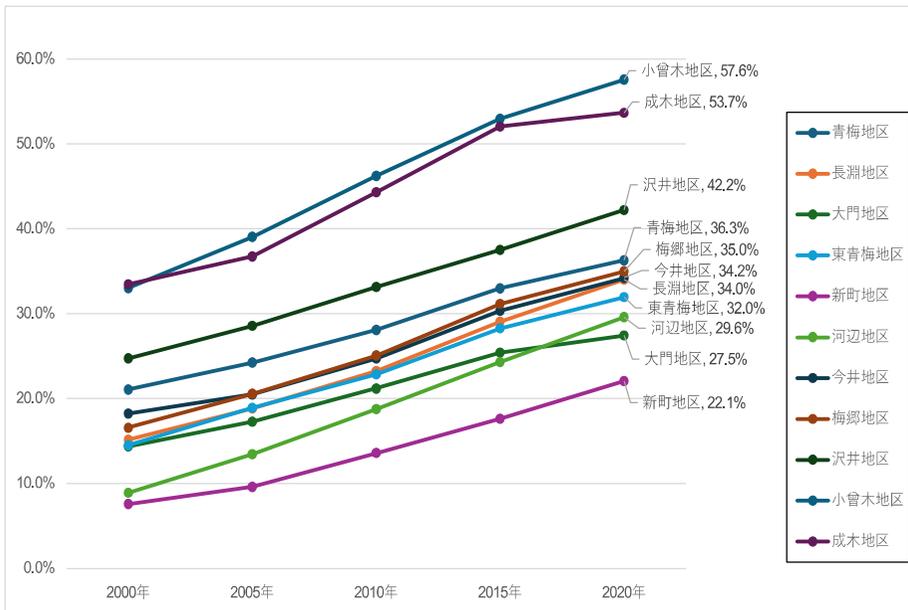
# 青梅市内の地区別人口

- 地区別に見ると、大門地区、新町地区は人口が増加傾向にあり、高齢化率も低い。
- 小曾木地区、成木地区は、高齢化率が5割を超えている。

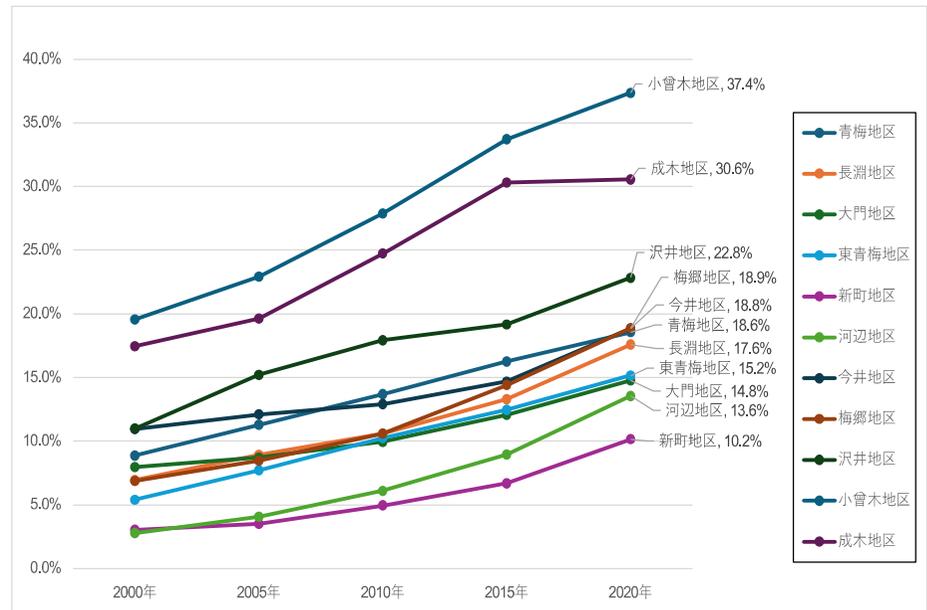
## 地区別総人口の推移



## 地区別65歳以上人口割合の推移



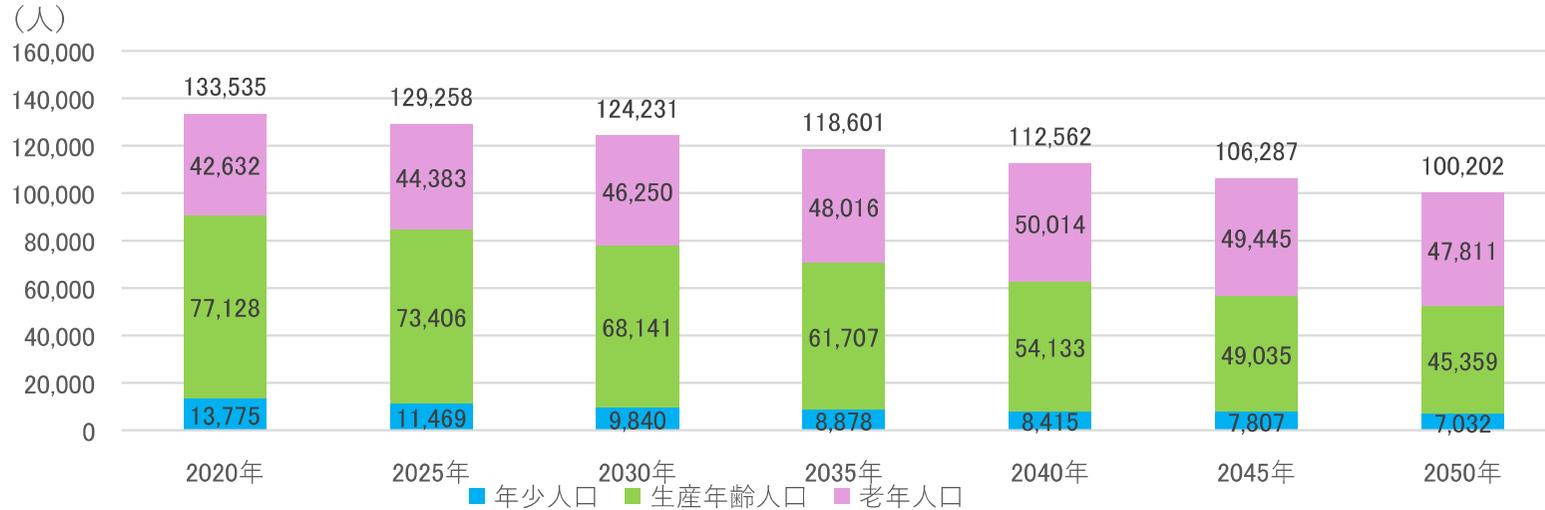
## 地区別75歳以上人口割合の推移



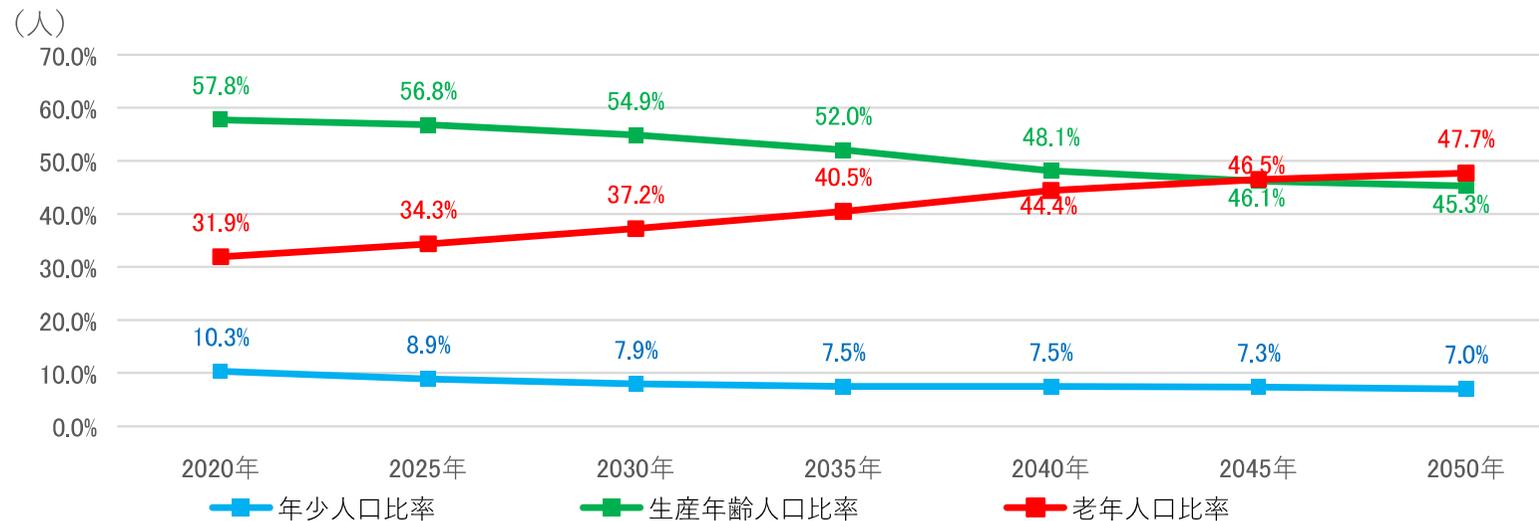
# 青梅市の将来推計人口

- 国立社会保障・人口問題研究所によると、青梅市の人口は2035年には12万人を切り、2050年には10万人程度まで減少すると推計されている。
- 高齢化率も上昇していくが、高齢者数自体は、2040年をピークに減少すると推計されている。

## 年齢3区分別将来人口の推移



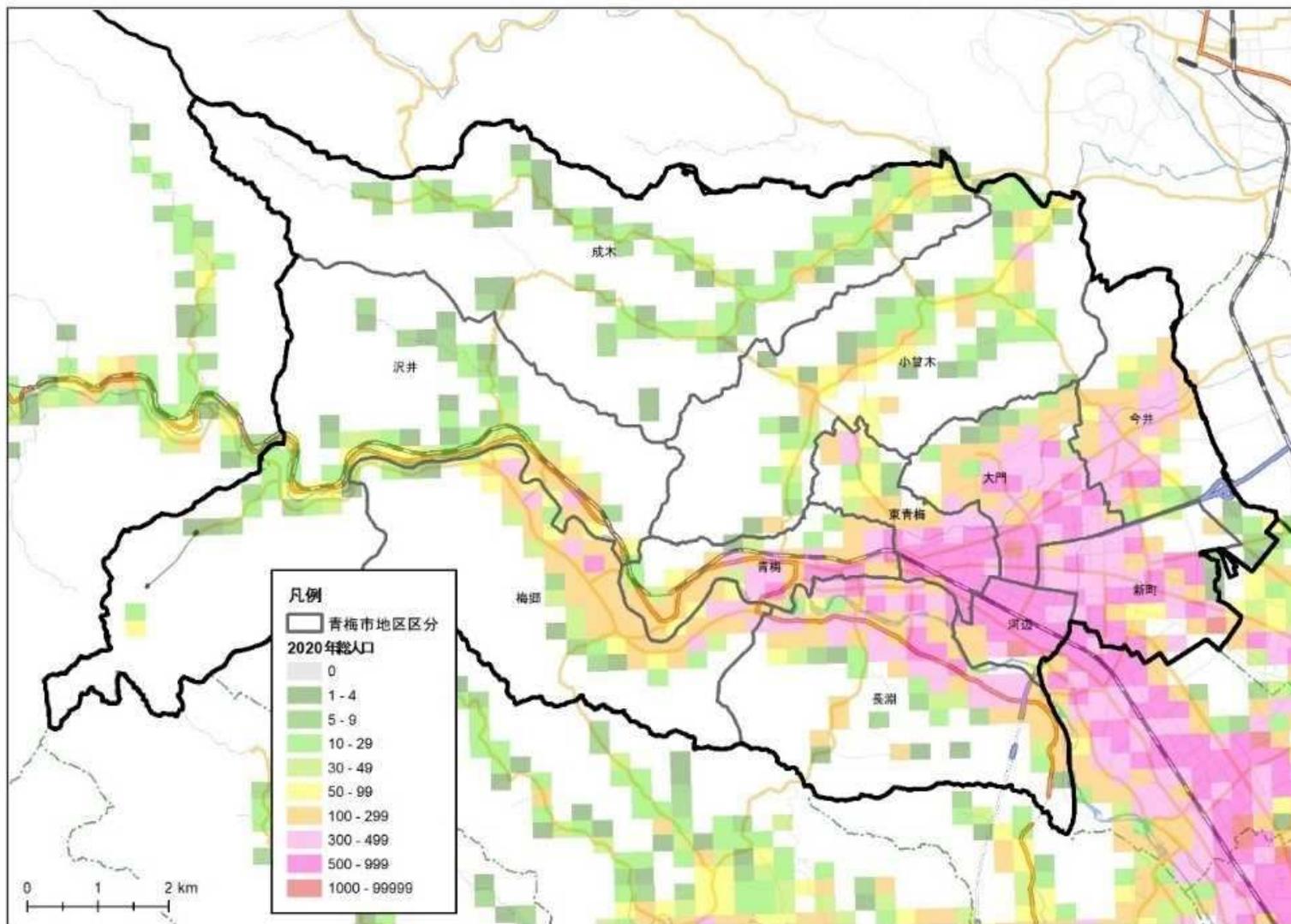
## 年齢3区分別将来人口割合の推移



# 青梅市内の人口分布

●青梅市の人口は、JR青梅線、国道411号線（青梅街道）沿いや、大門、今井、新町の東側のエリアに集積している。

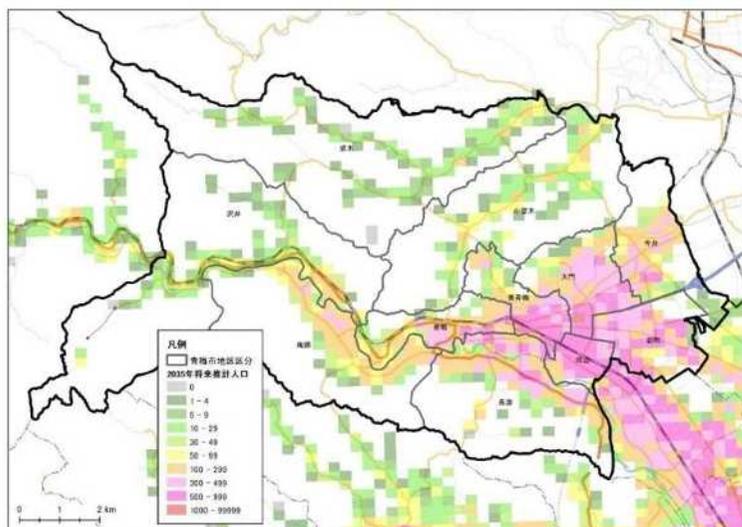
人口分布（2020年）



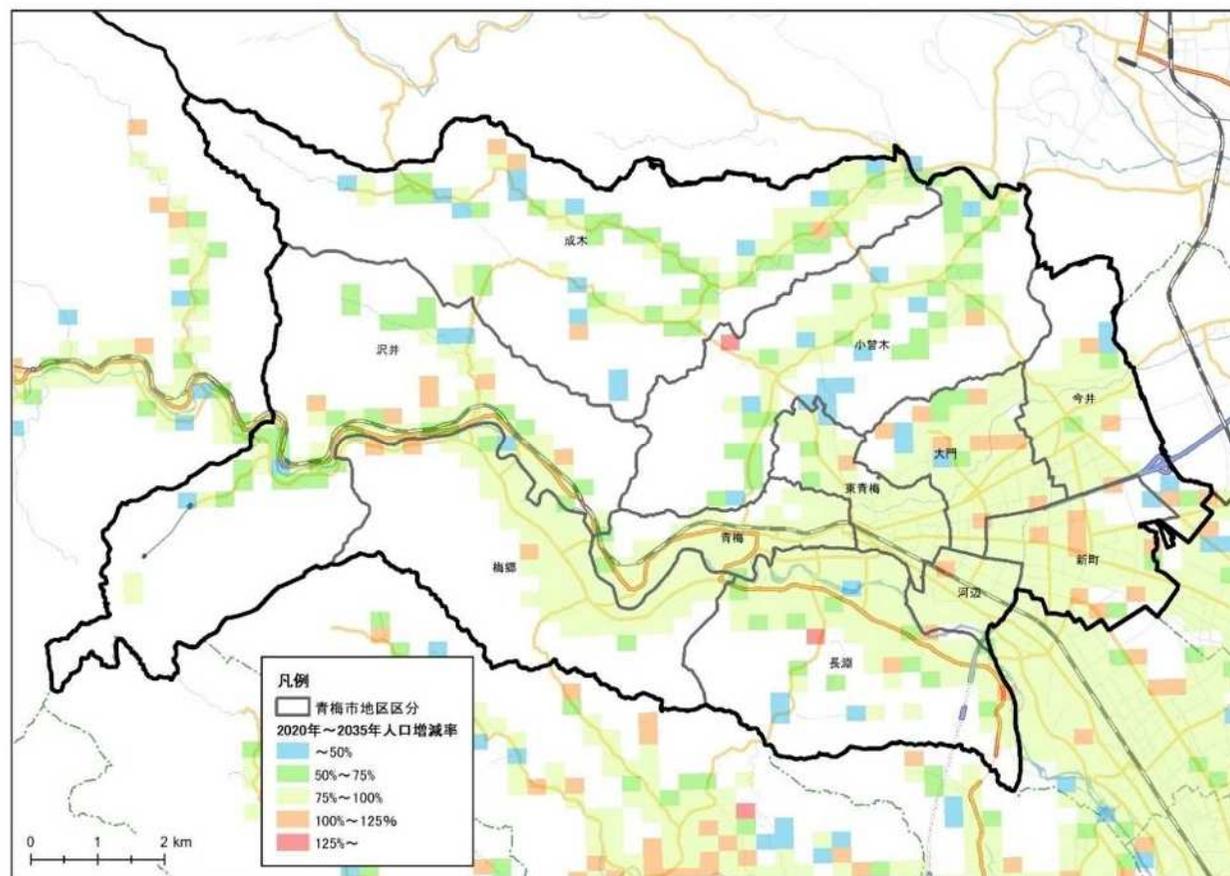
# 青梅市内の将来推計人口分布

- 将来推計人口も、全体の分布状況は大きな変化はない
- 全域で人口減少が進むものの、大門地区や新町地区などでは、人口が増加するとみられるエリアがある。一方、成木、小曾木、沢井では、人口が大きく減少とみられるエリアがある。

## 将来推計人口分布（2035年）



## 2020年～2035年人口増減率



# 青梅市及び周辺市町村の世帯数

- 青梅市の世帯数は増加傾向となっている。
- 青梅市の65歳以上のみ世帯数、65歳以上単独世帯数は増加しており、2010年～2020年の増加率は、西多摩エリアでは日の出町に次いで高い増加率となっている。

## 青梅市及び周辺市町村の世帯数の推移

市町村	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2010年⇒2020年増減率
青梅市	49,180	52,090	52,352	54,196	56,354	+7.6%
福生市	25,334	26,386	26,951	27,220	28,117	+4.3%
羽村市	20,961	22,374	23,421	23,435	23,789	+1.6%
あきる野市	25,654	27,570	29,337	30,758	31,840	+8.5%
瑞穂町	10,677	11,649	12,356	13,179	13,000	+5.2%
日の出町	4,750	4,865	5,432	5,765	5,973	+10.0%
檜原村	1,007	977	912	836	830	▲9.0%
奥多摩町	2,484	2,349	2,209	2,036	1,975	▲10.6%

## 周辺地域の65歳以上のみ世帯数の推移

市町村	2005年	2010年	2015年	2020年	2010年⇒2020年増減率
青梅市	6,467	8,580	11,833	14,851	+73.1%
福生市	3,564	4,635	5,431	6,755	+45.7%
羽村市	2,513	3,662	4,676	5,661	+54.6%
あきる野市	3,631	5,289	7,076	8,125	+53.6%
瑞穂町	1,301	1,908	2,676	3,153	+65.3%
日の出町	638	976	1,437	1,863	+90.9%
檜原村	302	289	288	345	+19.4%
奥多摩町	619	690	769	863	+25.1%

## 周辺地域の65歳以上の単独世帯数の推移

市町村	2005年	2010年	2015年	2020年	2010年⇒2020年増減率
青梅市	3,172	3,996	5,561	7,412	+85.5%
福生市	2,036	2,680	3,071	4,093	+52.7%
羽村市	1,163	1,742	2,265	2,883	+65.5%
あきる野市	1,499	2,216	3,043	3,519	+58.8%
瑞穂町	573	873	1,226	1,479	+69.4%
日の出町	236	369	494	726	+96.7%
檜原村	153	142	155	193	+35.9%
奥多摩町	303	353	407	463	+31.2%

# 青梅市内の地区別世帯数

●65歳以上のみの世帯数および65歳以上の単独世帯数を地区別に見ると、特に今井地区や新町地区の増加率が高くなっている。

## 地区別の65歳以上のみの世帯数の推移

地区	2005年	2010年	2015年	2020年	2010年⇒2020年増減率
青梅市（総数）	6,467	8,580	11,833	14,851	+73.1%
青梅地区	982	1,114	1,390	1,530	+37.3%
長淵地区	988	1,286	1,800	2,313	+79.9%
大門地区	771	1,101	1,501	1,947	+76.8%
東青梅地区	1,021	1,254	1,647	2,043	+62.9%
新町地区	487	746	1,099	1,530	+105.1%
河辺地区	798	1,175	1,673	2,114	+79.9%
今井地区	275	425	741	997	+134.6%
梅郷地区	509	691	974	1,199	+73.5%
沢井地区	287	348	422	489	+40.5%
小曾木地区	207	265	365	443	+67.2%
成木地区	142	175	221	246	+40.6%

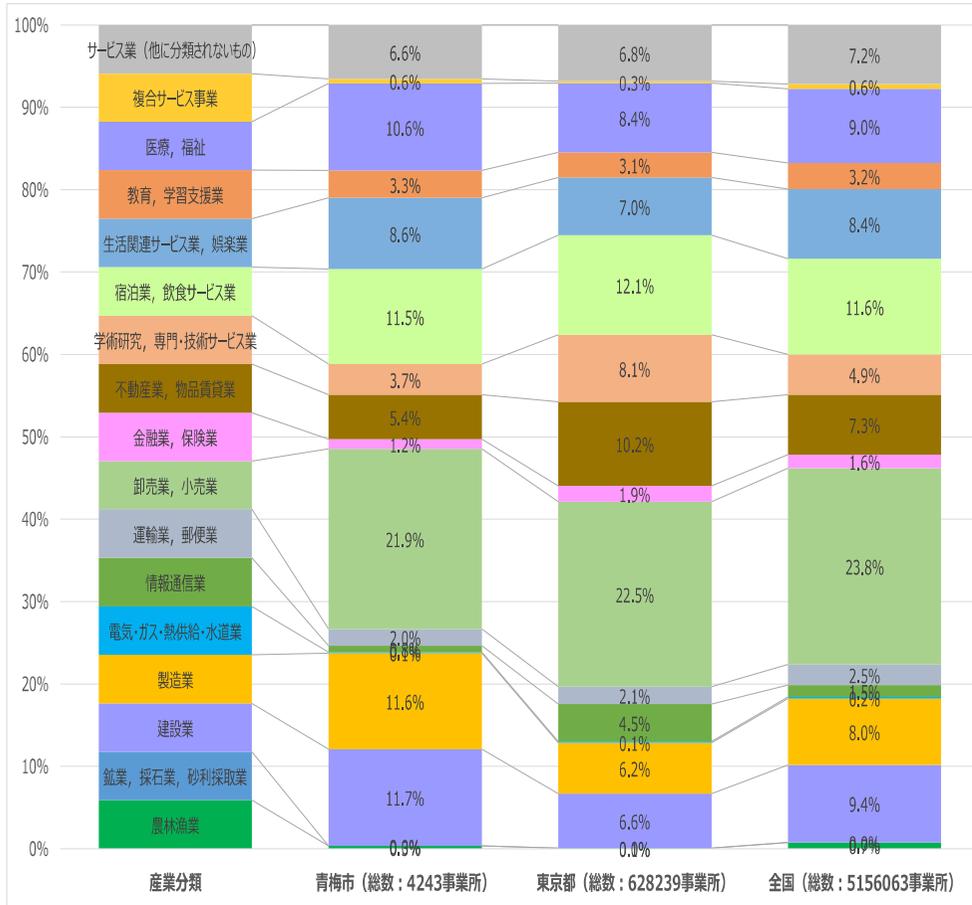
## 地区別の65歳以上の単独世帯数の推移

地区	2005年	2010年	2015年	2020年	2010年⇒2020年増減率
青梅市（総数）	3,172	3,996	5,561	7,412	+85.5%
青梅地区	481	562	715	804	+43.1%
長淵地区	459	561	802	1,104	+96.8%
大門地区	393	496	680	923	+86.1%
東青梅地区	508	619	871	1,149	+85.6%
新町地区	225	335	477	679	+102.7%
河辺地区	490	680	951	1,259	+85.1%
今井地区	125	161	244	407	+152.8%
梅郷地区	227	273	389	525	+92.3%
沢井地区	127	139	189	244	+75.5%
小曾木地区	85	104	153	206	+98.1%
成木地区	52	66	90	112	+69.7%

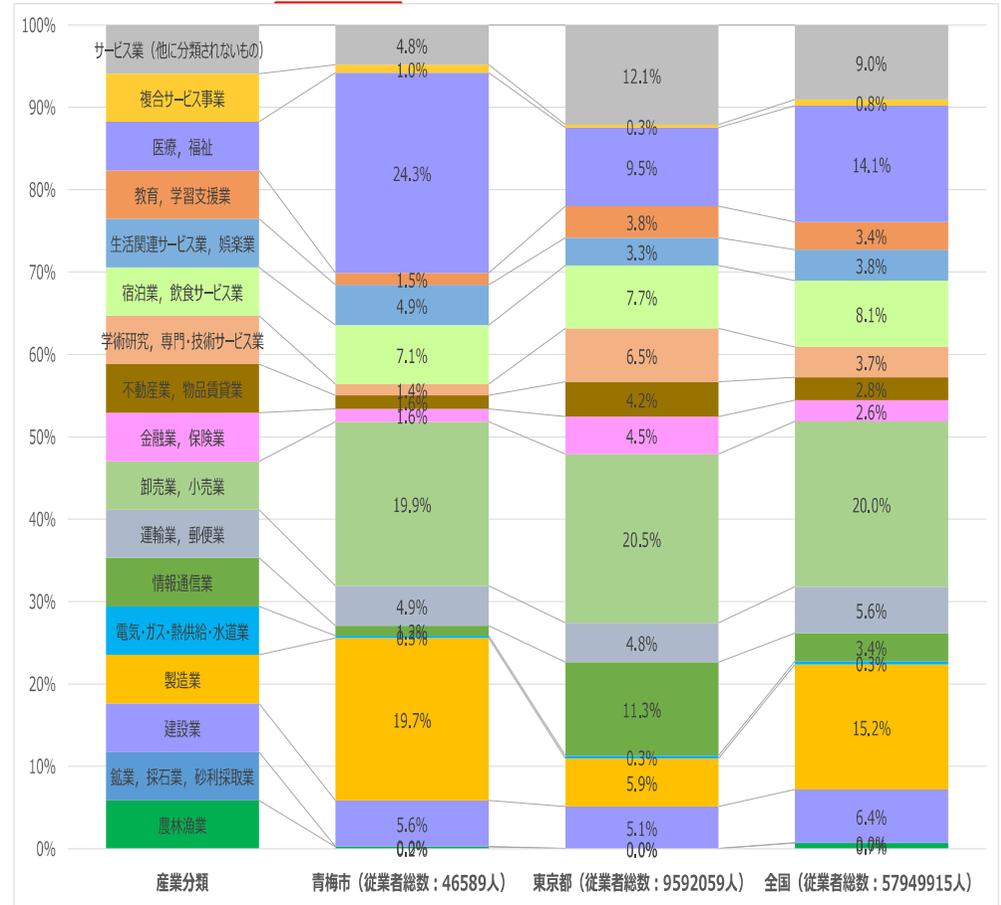
# 青梅市の産業構造（産業分類別事業所数・従業者数）

- R3経済センサスによると、青梅市の事業所数は4243事業所で、うち卸売業・小売業の割合が21.9%で最も高く、次いで建設業、製造業、宿泊業・飲食サービス業の割合が大きい。従業者数は46589人で、医療・福祉が24.3%で最も割合が高く、次いで卸売業・小売業、製造業の割合が高い
- 東京都や全国平均と比較すると、事業所数では製造業、建設業の割合が高く、従業者数では、医療・福祉、製造業の割合が高い。

## 産業別事業所数（2021年）

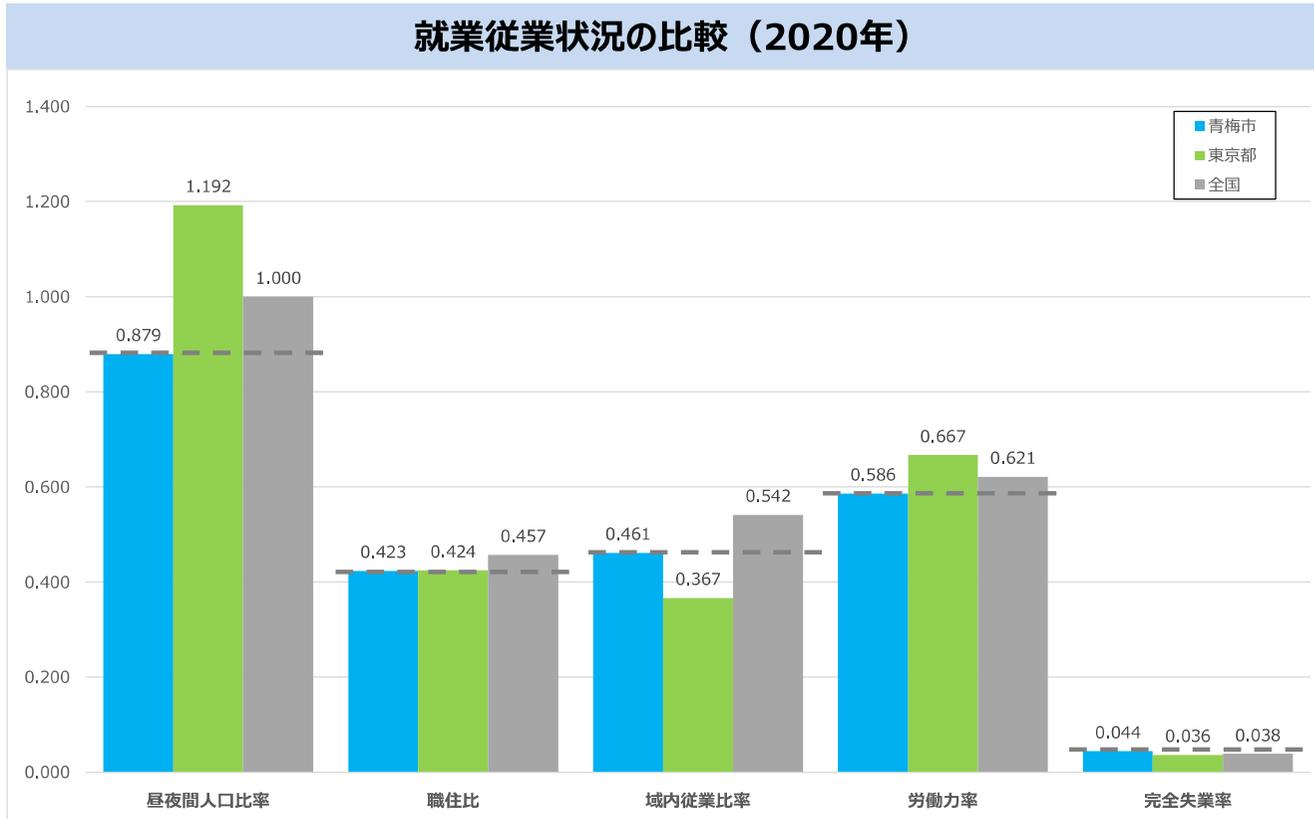


## 産業別従業者数（2021年）



# 青梅市の就業・従業状況

- 昼夜間人口比率は0.879（＜1.0）で、昼間人口よりも夜間人口のほうが多い（通勤等による流入よりも流出が多い）
- 職住比は0.423で、東京都平均とほぼ同様で全国平均よりも低い（総人口に対して、就業人口の割合が全国平均よりも低い）
- 域内従業比率は0.461で、東京都平均よりもやや高い（市内で働いている人の割合が東京都平均よりも高い）
- 労働力率は0.586で、東京都平均、全国平均よりも低い



**[各指標の定義]**

昼夜間人口比率：昼間人口/夜間人口

職住比：就業者数/総人口

域内従業比率：就業者のうち市内従業者数/就業者数 ※東京都、全国の数値は、市区内就業者のうち市区内従業者の合計

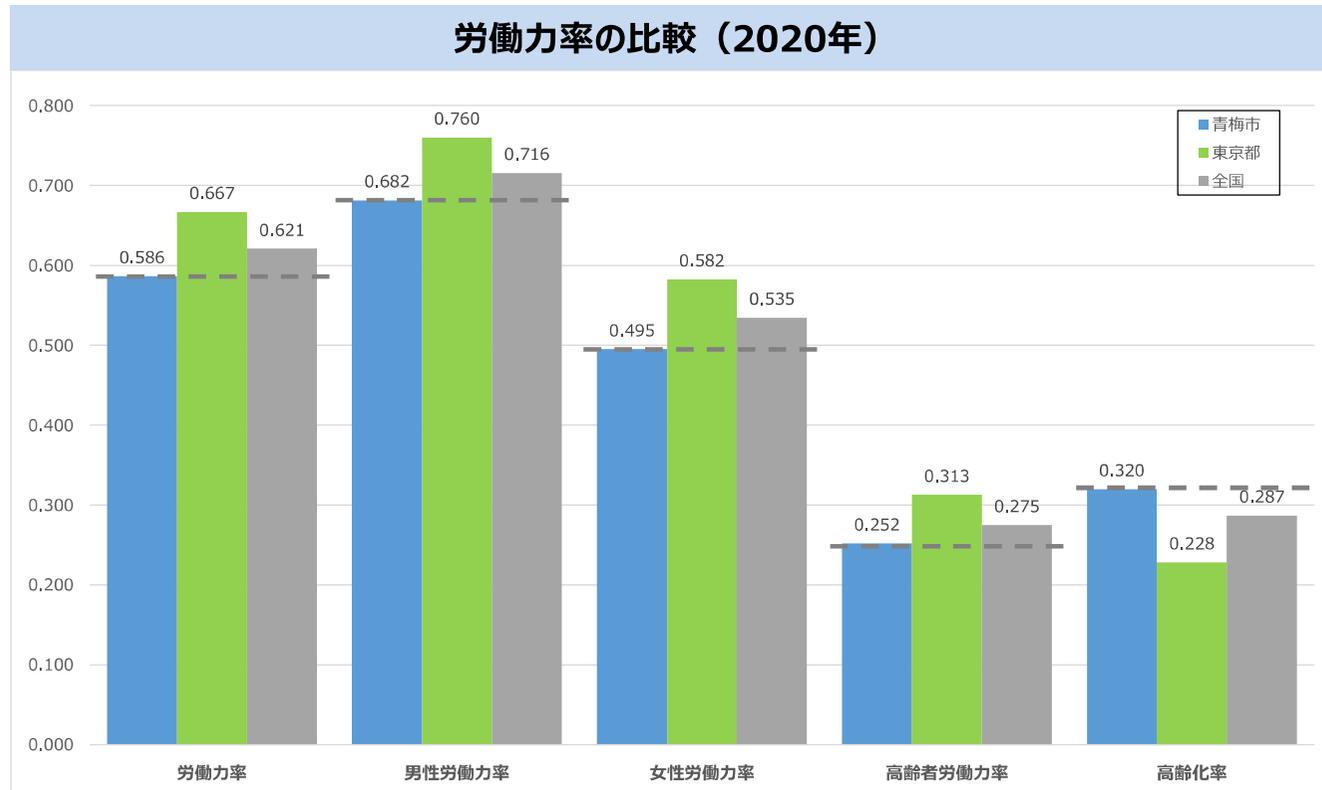
労働力率：労働力人口/（15歳以上人口－労働力状態不詳人口）

完全失業率：完全失業者数/労働力人口 ※完全失業者：仕事を探しているが職に就いていない人

15歳以上人口				
労働力人口			非労働力人口	
就業者	完全失業者	通学	家事	その他 (高齢者、病気等)

# 青梅市の労働力率の分析

- 労働力率について詳細を見ると、男性・女性・高齢者ともに東京都や全国と比べて低い。
- この背景として、青梅市の高齢化率が比較的高いことに加え、就業している高齢者が少ないことが考えられる。



労働力率：労働力人口/（15歳以上人口－労働力状態不詳人口）

# 青梅市の商業（小売業）

- 小売業、2016年～2021年で、事業所数、従業者数、年間商品販売額ともに増加している。
- 一方で、売場面積は減少しており、売場面積あたり販売額は増加している。

## 事業所数

市町村	事業所数（事業所）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	622	624	+0.3%
立川市	1,065	1,097	+3.0%
昭島市	537	464	▲13.6%
福生市	316	259	▲18.0%
武蔵村山市	410	385	▲6.1%
羽村市	267	231	▲13.5%
あきる野市	430	372	▲13.5%
飯能市	469	456	▲2.8%
入間市	787	764	▲2.9%

## 従業者数

市町村	従業者数（人）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	5,551	6,187	+11.5%
立川市	12,377	13,582	+9.7%
昭島市	5,590	5,946	+6.4%
福生市	2,367	2,405	+1.6%
武蔵村山市	4,009	4,347	+8.4%
羽村市	2,437	2,403	▲1.4%
あきる野市	3,121	3,096	▲0.8%
飯能市	3,531	3,513	▲0.5%
入間市	7,393	7,754	+4.9%

## 年間商品販売額

市町村	年間商品販売額（百万円）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	114,599	125,113	+9.2%
立川市	301,251	280,697	▲6.8%
昭島市	121,344	120,896	▲0.4%
福生市	54,195	45,237	▲16.5%
武蔵村山市	84,590	75,406	▲10.9%
羽村市	54,910	45,857	▲16.5%
あきる野市	56,146	48,780	▲13.1%
飯能市	55,316	54,003	▲2.4%
入間市	159,284	157,979	▲0.8%

## 売場面積

市町村	売場面積（㎡）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	130,722	129,555	▲0.9%
立川市	277,682	295,270	+6.3%
昭島市	135,551	135,590	+0.0%
福生市	53,117	48,705	▲8.3%
武蔵村山市	98,014	95,567	▲2.5%
羽村市	43,550	40,687	▲6.6%
あきる野市	55,786	55,210	▲1.0%
飯能市	79,868	87,283	+9.3%
入間市	187,510	187,852	+0.2%

## 事業所あたり従業者数

市町村	事業所数（事業所）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	622	624	+0.3%
立川市	1,065	1,097	+3.0%
昭島市	537	464	▲13.6%
福生市	316	259	▲18.0%
武蔵村山市	410	385	▲6.1%
羽村市	267	231	▲13.5%
あきる野市	430	372	▲13.5%
飯能市	469	456	▲2.8%
入間市	787	764	▲2.9%

## 従業者1人当たり販売額

市町村	従業者1人当たり販売額（万円/人）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	2,064	2,022	▲2.0%
立川市	2,434	2,067	▲15.1%
昭島市	2,171	2,033	▲6.3%
福生市	2,290	1,881	▲17.8%
武蔵村山市	2,110	1,735	▲17.8%
羽村市	2,253	1,908	▲15.3%
あきる野市	1,799	1,576	▲12.4%
飯能市	1,567	1,537	▲1.9%
入間市	2,155	2,037	▲5.4%

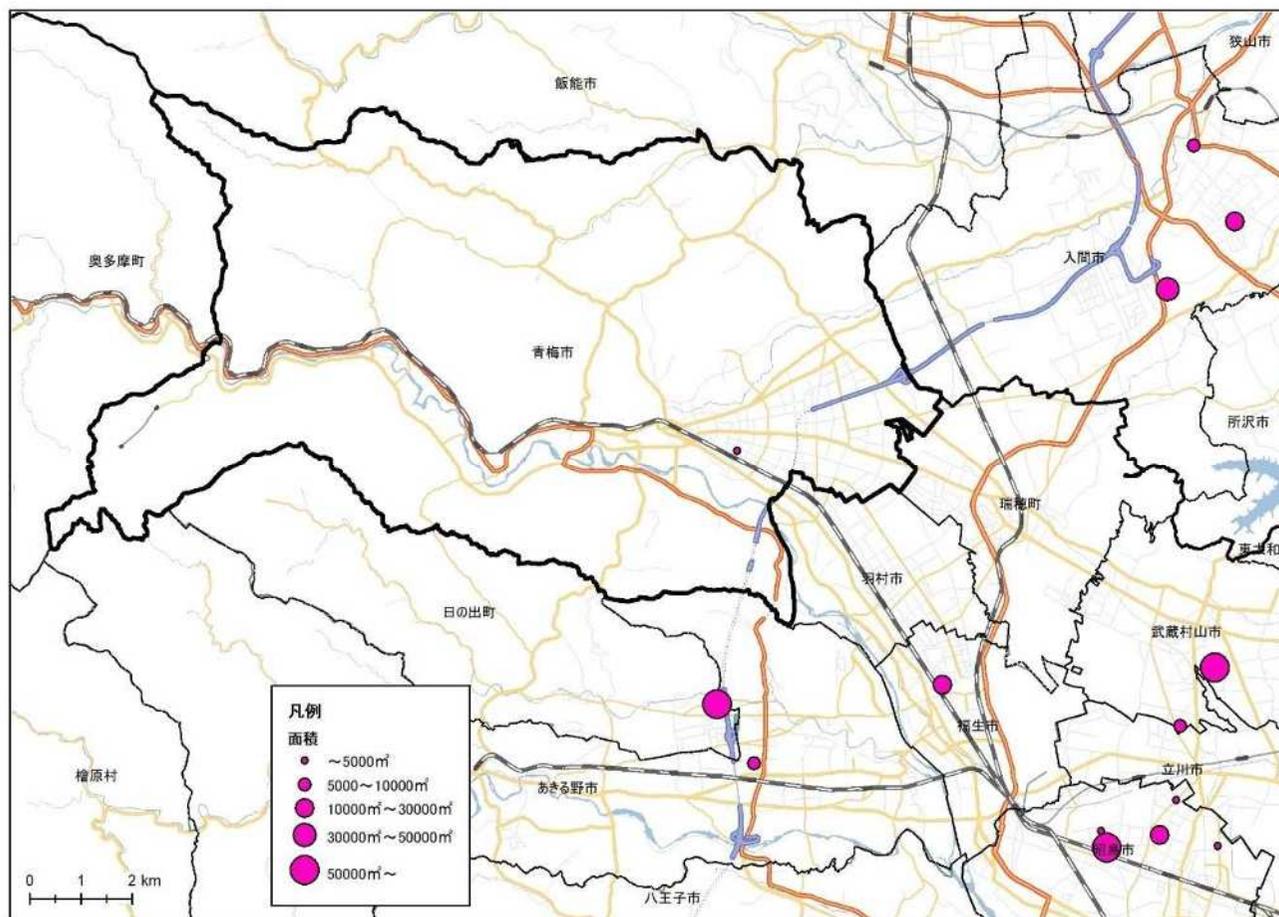
## 売場面積当たり販売額

市町村	売場面積当たり販売額（万円/㎡）		
	2016年	2021年	増減率
青梅市	88	97	+10.2%
立川市	108	95	▲12.4%
昭島市	90	89	▲0.4%
福生市	102	93	▲9.0%
武蔵村山市	86	79	▲8.6%
羽村市	126	113	▲10.6%
あきる野市	101	88	▲12.2%
飯能市	69	62	▲10.7%
入間市	85	84	▲1.0%

# 青梅市の商業（周辺市町の大規模ショッピングセンター）

- 青梅市周辺には、大規模ショッピングセンターが複数立地している

## 近隣市町における大規模ショッピングセンター



# 青梅市の製造業（事業所数・従業者数）

- 製造業の分類別の事業所数を見ると、生産用機械器具製造業が最も多く、次いで金属製品製造業、プラスチック製品製造業が多い。
- 従業者数は、電子部品・デバイス・電子回路製造業が最も多く、次いで生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、食料品製造業、輸送用機械器具製造業が多い。これら、上位

## 事業所数・従業者数の推移

産業分類	事業所数（個人経営を含まない） （事業所）			従業者数 （人）		
	2021年	2022年	2023年	2021年	2022年	2023年
食料品製造業	13	14	14	777	792	780
飲料・たばこ・飼料製造業	1	1	1	82	76	74
繊維工業	5	8	8	205	144	143
木材・木製品製造業（家具を除く）	1	2	2	7	19	18
家具・装備品製造業	2	5	5	12	23	23
パルプ・紙・紙加工品製造業	4	4	4	59	59	59
印刷・同関連業	8	11	10	145	128	91
化学工業	1	2	3	7	24	206
石油製品・石炭製品製造業	1	1	1	26	27	20
プラスチック製品製造業（別掲を除く）	18	24	24	314	321	309
ゴム製品製造業	1	1	1	17	17	17
なめし革・同製品・毛皮製造業	-	1	1	-	1	1
窯業・土石製品製造業	8	11	11	199	240	237
鉄鋼業	3	3	3	40	40	42
非鉄金属製造業	1	1	1	19	19	19
金属製品製造業	25	31	31	378	371	386
はん用機械器具製造業	3	6	6	27	32	32
生産用機械器具製造業	41	48	49	999	956	1,012
業務用機械器具製造業	14	16	16	785	843	888
電子部品・デバイス・電子回路製造業	12	14	15	1,516	1,563	1,641
電気機械器具製造業	18	19	19	508	507	459
情報通信機械器具製造業	3	3	4	43	48	98
輸送用機械器具製造業	10	16	17	1,033	577	707
その他の製造業	6	8	7	138	219	127
製造業計	199	250	253	7,336	7,046	7,389

# 青梅市の製造業（製造品等出荷額・粗付加価値額）

- 青梅市の2023年の製造品出荷額等は1731億円で、粗付加価値額は、729億円で、いずれも2022年からやや減少している。
- 粗付加価値額の業種別の割合を見ると、電子部品・デバイス・電子回路製造業の割合が24.2%で最も高く、次いで業務用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業の割合が高い。これら上位3業種で、全体の5割以上を占めている。

## 製造品出荷額・粗付加価値額の推移

産業分類	製造品出荷額等 (万円)			粗付加価値額 (万円)			粗付加価値 額割合
	2021年	2022年	2023年	2021年	2022年	2023年	2023年
食料品製造業	1,282,163	1,193,956	1,258,250	473,659	530,403	537,924	2023年
飲料・たばこ・飼料製造業	X	X	X	X	X	X	 7.6%
繊維工業	188,451	156,775	158,887	86,009	64,264	60,504	-
木材・木製品製造業（家具を除く）	X	X	X	X	X	X	 0.9%
家具・装備品製造業	X	35,549	34,186	X	16,978	17,274	-
パルプ・紙・紙加工品製造業	46,769	48,685	51,363	21,765	22,647	23,891	0.2%
印刷・同関連業	257,132	201,024	101,681	127,737	98,851	52,720	0.3%
化学工業	X	X	598,680	X	X	255,927	 0.7%
石油製品・石炭製品製造業	X	X	X	X	X	X	 3.6%
プラスチック製品製造業（別掲を除く）	480,678	533,929	489,687	226,083	239,489	209,703	-
ゴム製品製造業	X	X	X	X	X	X	 3.0%
なめし革・同製品・毛皮製造業	-	X	X	-	X	X	-
窯業・土石製品製造業	527,048	556,174	589,518	343,621	347,500	374,483	-
鉄鋼業	480,654	502,483	716,033	56,341	67,236	79,365	 5.3%
非鉄金属製造業	X	X	X	X	X	X	 1.1%
金属製品製造業	460,749	487,503	502,645	235,900	247,252	257,380	-
はん用機械器具製造業	47,683	52,162	55,460	-43,886	30,333	32,166	 3.6%
生産用機械器具製造業	1,952,384	2,251,668	2,747,190	748,254	865,053	1,115,715	0.5%
業務用機械器具製造業	1,609,066	2,402,752	2,483,121	680,695	1,113,511	1,165,415	 15.8%
電子部品・デバイス・電子回路製造業	4,612,751	6,162,072	4,734,266	2,085,042	2,355,681	1,709,404	 16.5%
電気機械器具製造業	781,659	844,788	722,307	441,997	421,111	291,764	 24.2%
情報通信機械器具製造業	121,220	133,473	213,886	44,460	64,241	83,178	 4.1%
輸送用機械器具製造業	2,464,261	1,184,159	1,400,131	452,194	477,309	586,032	 1.2%
その他の製造業	136,875	297,259	163,577	57,532	168,891	72,640	 8.3%
製造業計	15,860,097	17,470,214	17,318,058	6,177,962	7,285,702	7,061,842	 1.0%

---

## 2. 青梅市の地域経済循環分析

## 青梅市第7次総合計画 「地域経済」

### 6 地域経済

#### 10年後に目指す姿

- 労働生産性が高く、付加価値を生み出す地域産業が、世界中から所得を得ています。
- 地域産業が稼いだ所得が、地域外へ流出させることなく分配され、地域内で消費・投資されています。
- 地域経済が好循環し、住民所得が向上しています。



#### 施策の展開

- 6-1 基盤産業の振興と地域内企業の活性化
- 6-2 世界に向けた地場産業の振興
- 6-3 商業の活性化による地域内消費の向上
- 6-4 スタートアップの支援と円滑な事業承継の実現
- 6-5 稼げる農林業の推進
- 6-6 美しい山と溪谷を収益につなげる観光の推進

## 地域経済循環分析でわかること

良好な地域経済循環構造を構築するために把握すべきこと

### ①地域の様々な経済活動の結果、地域の住民の所得は向上しているか？

地域経済政策の最終的な成果は地域の住民の所得（資金）の向上であり、地域経済循環分析では住民の所得水準を把握することが可能である。

### ②地域の産業（企業）の稼ぐ力はどうなっているか？

地域の産業（企業）の強み・弱みを数値に基づいて把握することが可能。「他地域と比較して強い産業」、「地域の得意な産業（地域内に集積している産業）」、「他地域から稼ぐ産業」等を把握することが可能である。

### ③地域の資金（所得）の流入、所得の循環構造はどうなっているか？

地域からの所得（資金）の流出や他地域からの流入等の所得（資金）の循環構造を把握することが可能である。さらに、所得の中には補助金、助成金等の財政的な移転も考慮されている。

地域経済政策の最終的な成果は、「住民の所得」を向上させることであり、そのためにも「地域の稼ぐ力」と「所得の循環」で構成される地域経済循環構造を構築することが重要である。

## 1. 地域の稼ぐ力：生産面

### 稼ぐ力の4つの側面・見方

#### 地域の産業の生産性（絶対優位）

地域全体での労働生産性が他の地域と比較して高いこと。地域内の産業が他地域と比較して高いこと

#### 地域の得意な産業（比較優位）

地域の中で、相対的に得意な産業に特化することで、域内外から所得を稼ぐことである

#### 他地域から稼ぐ所得（外貨稼ぎ）

地域で生産した財・サービスを域外に販売して稼ぐ所得額であり、外貨を稼ぐことである

#### 地域の核となる産業の生産性

地域における企業取引の中核となる産業の労働生産性を高めることが重要である

### 地域経済の3つの側面・見方

#### ①生産面

地域において地域企業、事業所が財・サービスの生産・販売を行い、所得を稼ぐ段階

#### ②分配面

生産面で稼いだ所得を家計、企業に分配し、実際に住民が受け取る所得となる段階。

#### ③支出面

支出面では、分配された所得を用いて、消費や投資等として支出する段階。

## 2. 所得の循環：①生産・販売→②分配→③支出→④生産への還流の循環構造

### 視点1：分配での流出入

生産・販売で稼いだ所得が、地域の住民・企業に分配の過程で生じる所得の流出入。企業の本社等への送金等（民間ベース）と、交付金、補助金等の財政移転（公共ベース）や、通勤による勤務地から居住地への所得流出等がある。

### 視点2：消費での流出入

住民・企業が得た所得を消費する際に生じる所得の流出入。観光客の流入による観光消費の拡大、日常の買い物を他地域の大型SCで行うことで所得の流出等がある。

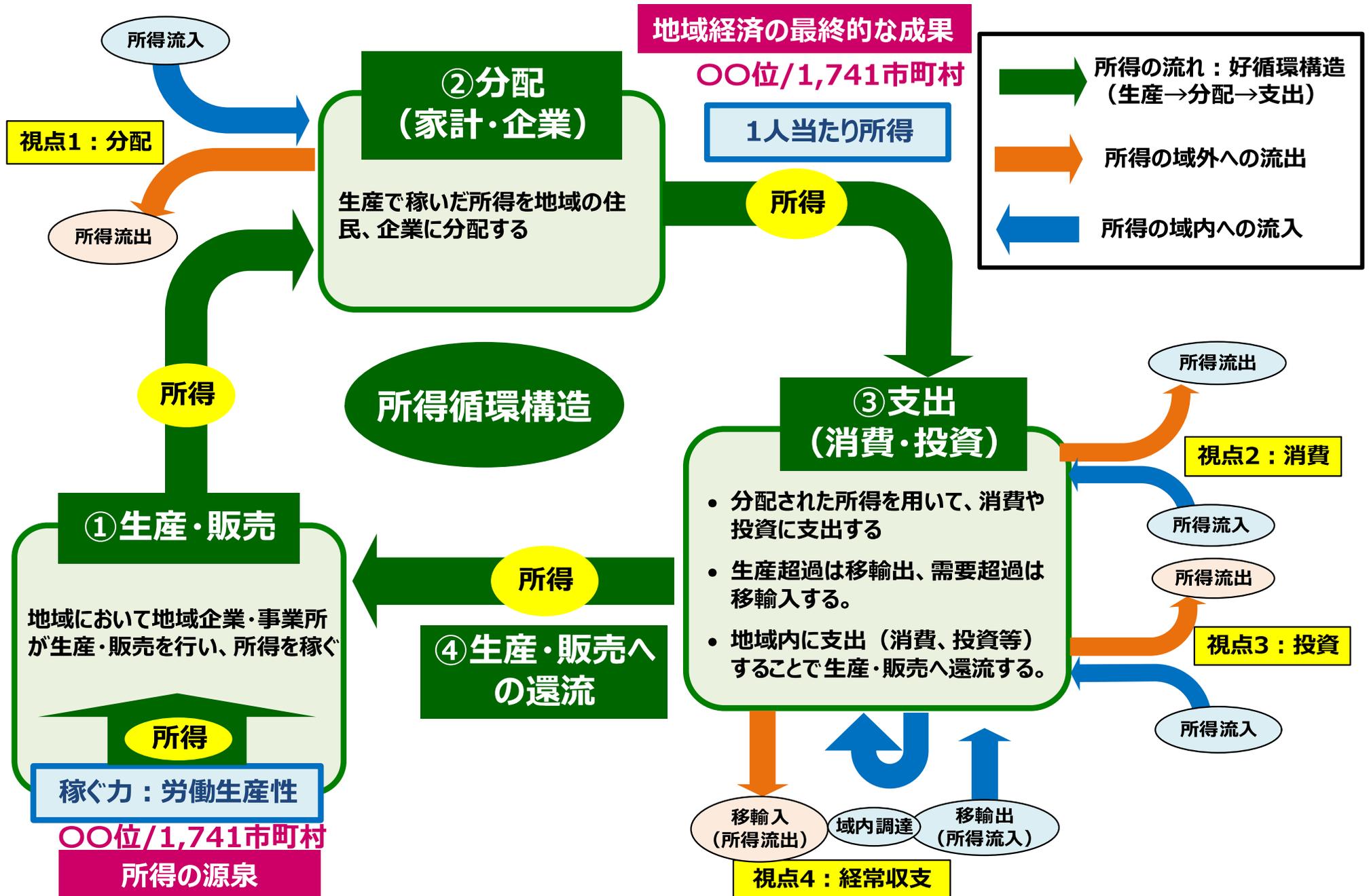
### 視点3：投資での流出入

住民・企業が得た所得を投資する際に生じる所得の流出入。他地域に事務所、機械設備、工場等の設置することでの所得の流出等がある。

### 視点4：経常収支での流出入

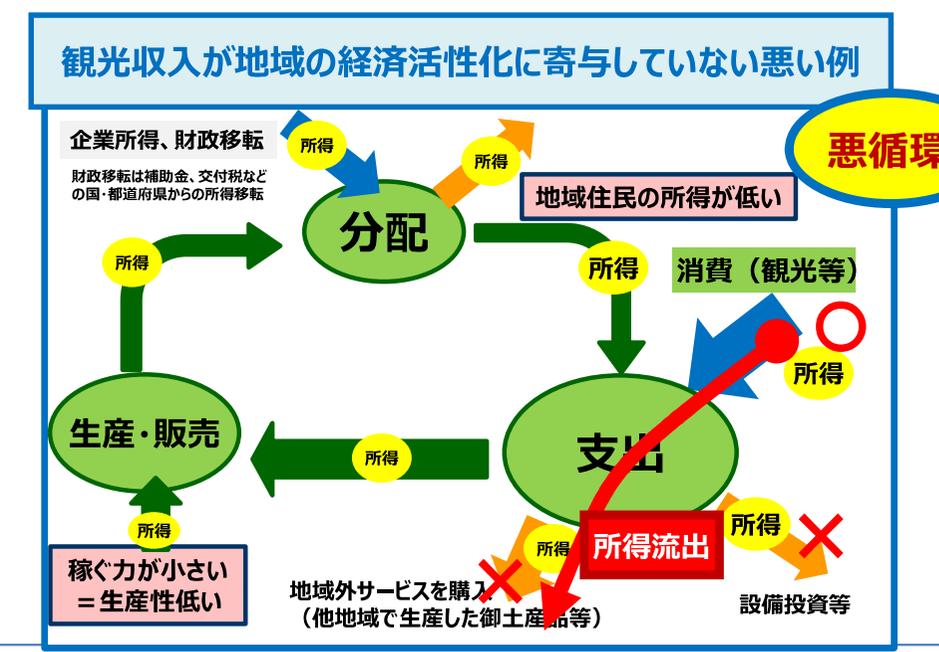
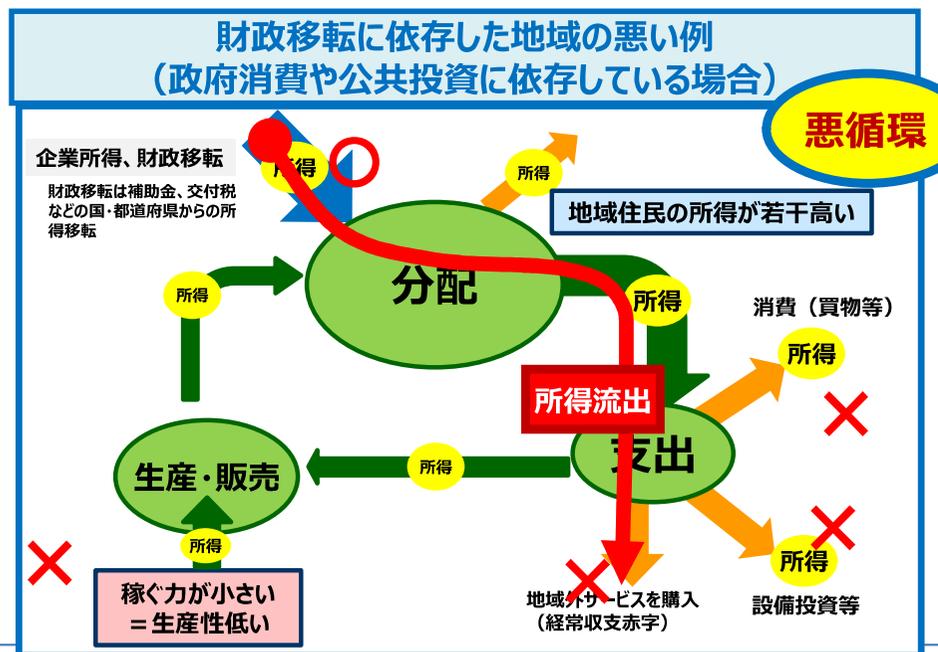
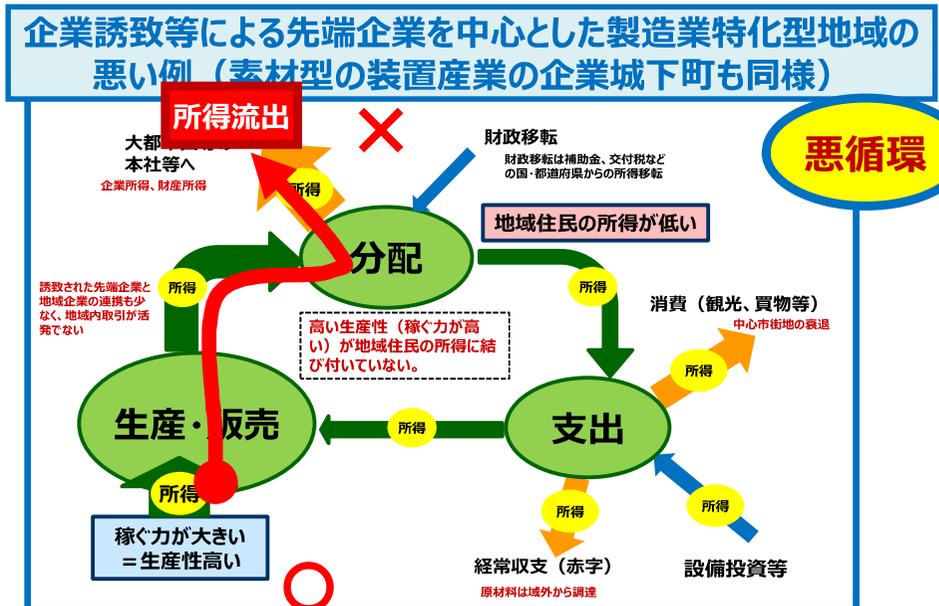
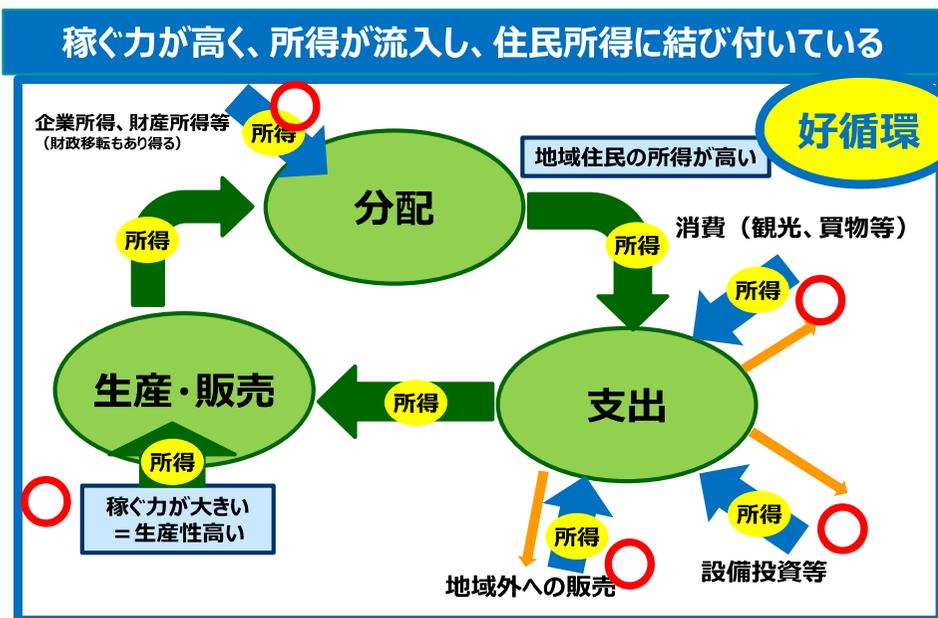
域外から原材料等の購入により所得の流出、財・サービスの域外への販売による所得の流入がある。

# 地域経済循環構造とは



# 地域経済循環分析の視点①

地域経済循環構造の分析 ⇒どこで所得が漏れているか？

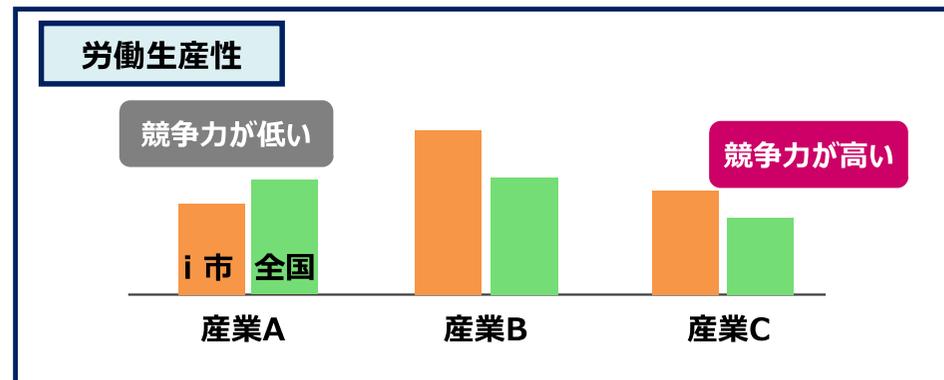


# 地域経済循環分析の視点②

生産面の分析 ⇒競争力の高い産業、優位な産業、域外から稼ぐ産業は何か？

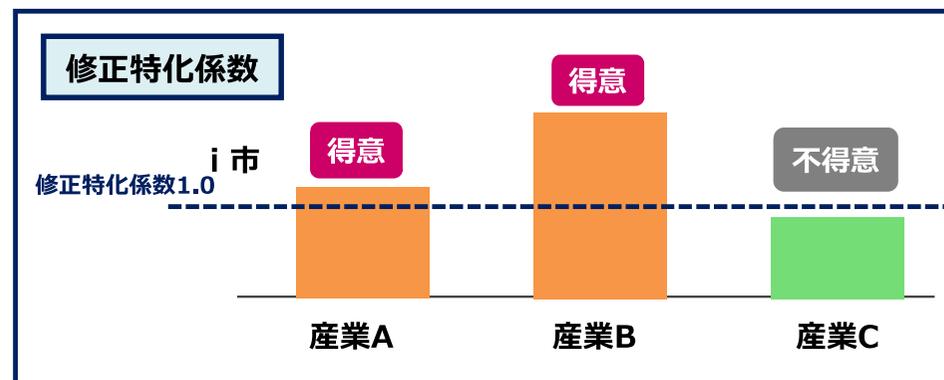
## 競争力の高い産業（絶対優位）

- 競争力の高い産業（絶対優位な産業）は、産業別の労働生産性で把握する。
- 労働生産性とは、従業者1人当たりの付加価値額として算出した指標。
- 労働生産性が高い産業は、他地域と比較して競争力が高い産業であり、他地域との競争に勝てる産業である。



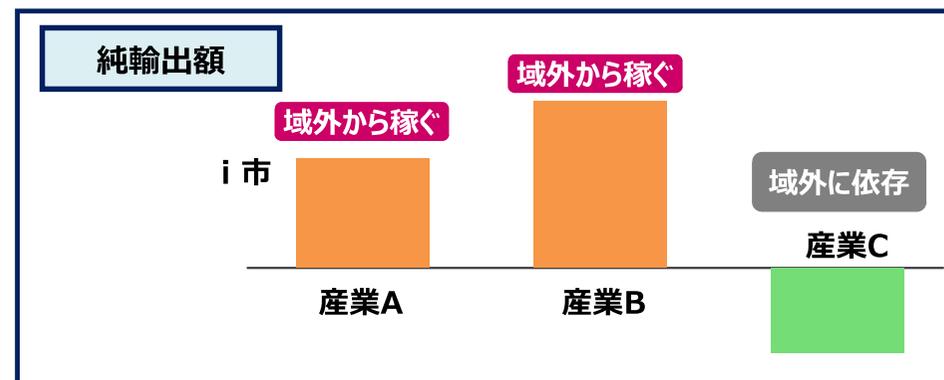
## 地域の得意な産業（比較優位）

- 地域の得意な産業（比較優位な産業）は、産業別の修正特化係数により把握する。
- 修正特化係数とは、当該産業の生産額シェアを全国と地域で比較した指標（輸出入も考慮）。
- 地域の得意な産業は、他地域との競争力の比較ではなく、地域内の産業間の比較となる。
- 競争力の高い産業が無い地域でも、得意な産業に特化することで地域も我が国も競争力が強化される。



## 域外から稼ぐ産業～産業別純移輸出額～

- 域外から稼ぐ産業は、産業別純移輸出額で把握できる。
- 産業別純移輸出額がプラスの産業は、域外から外貨を稼ぎ、地域内に所得（お金）を呼び込んでいる。
- 逆に、産業別純移輸出額がマイナスの産業は、域外にお金を支払い、財・サービスを購入している産業であり、域外に依存している。



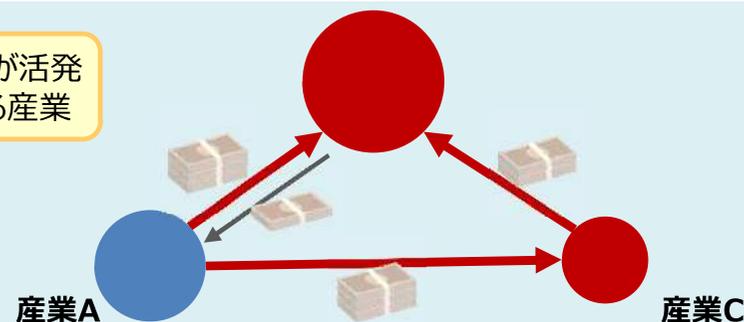
# 地域経済循環分析の視点②

取引状況の分析 ⇒域内の産業間のつながり、核となる産業はどうか？

## 地域の産業間取引構造

- 本分析で用いる地域産業連関表には、38産業×38産業の取引金額が記載されている。
- この産業間の取引金額が「地域の産業間取引構造」であり、これにより地域内での産業間のつながりが把握できる。

地域内の取引が活発でつながりのある産業



## 地域の核となる産業～影響力係数、感応度係数～

- 地域の核となる産業とは、原材料の調達先、製品・サービスの販売先の双方に影響力の強い産業である。
- 影響力が強いは、核となる産業の生産が増えた場合に、調達先、販売先の生産も増加することである。
- これらの関係は、影響力係数、感応度係数より把握できる。

核となる産業 = 販売先にも調達先にも影響力が高い産業

